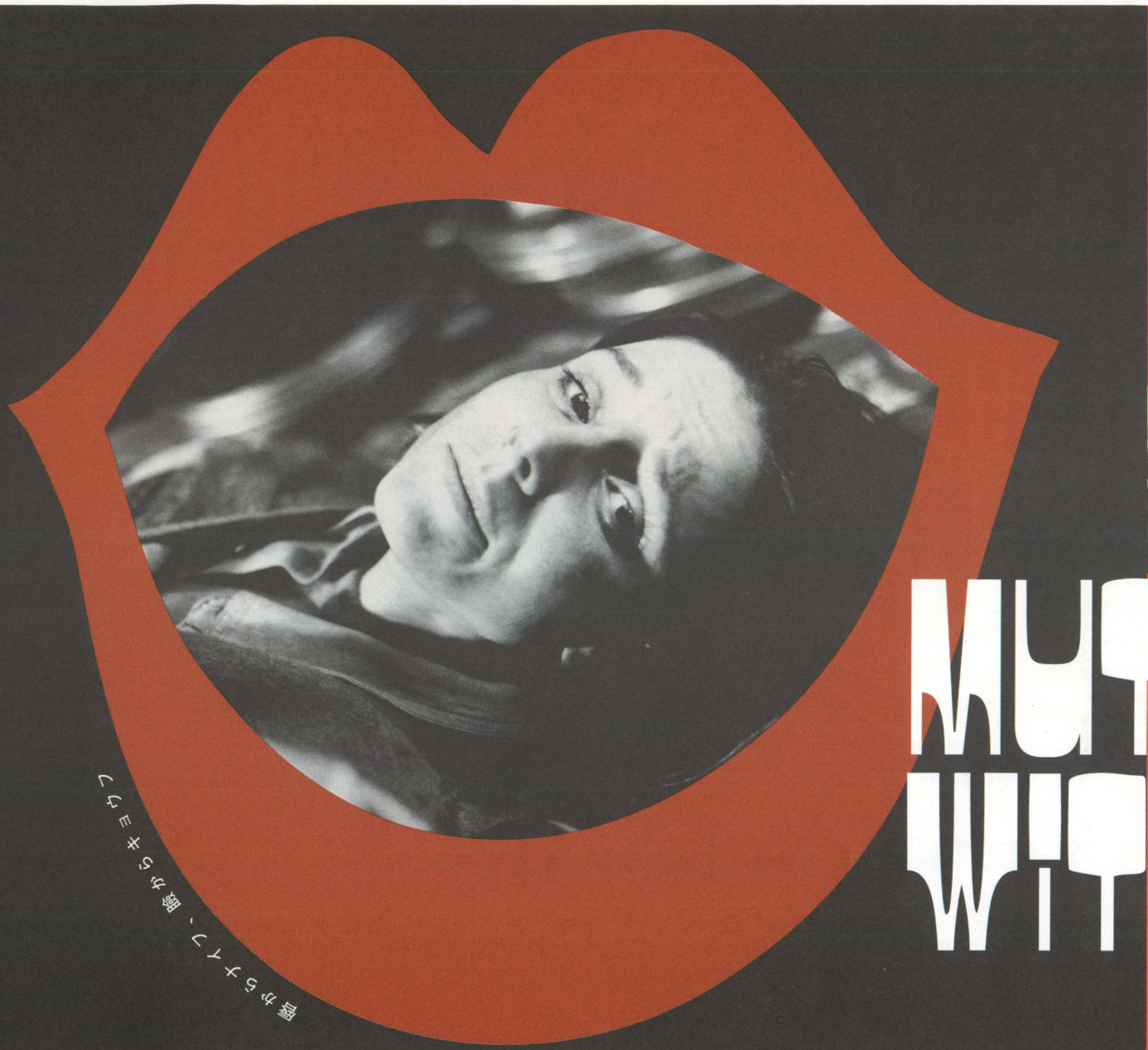

顔がスナフ、勝ちキまう

映像派サスペンスの超新鋭誕生

MUTE WITNESS

ミュート・ウィットネス

製作／監督／脚本＊アンソニー・ウォラー
主演＊マリーナ・スディナ　オレグ・ヤンコウスキー
1995年／アメリカ映画／35mm／98分
提供＊ソニー・ピクチャーズエンタテイメント
配給＊ケイブルホーグ

映画的真実を堪能させてくれる快作

江戸木純〈映画評論家〉

主人公が困難な状況にあり、ハンディキャップを背負っていればいるほど映画のスリルとサスペンスは盛り上がり、作品の面白さは増加する。一方、映画そのものに与えられた過酷な条件と苦難の数々は、作り手の才能の有無を鮮やかに浮かび上がらせる。

「ミュート・ウィットネス」は、その2つの映画的真実のお手本のようなサスペンス・スリラー。実在する様々な困難を逆手にとって映画の面白さに変える〈アイデアと才能〉という華麗なマジックを、存分に堪能させてくれる快作だ。

何といっても見事なのがロシアで撮影することのメリットを最大限に生かした作劇術。ソビエト崩壊後、1930年代の町並みがそのまま残るロケーションがあり、ソビエト映画界を支えたスタジオと熟練技術者を格安で使えるという利点から、無数の西側映画人がロシアでの撮影を敢行した（「バック・イン・ザ・USSR」「タッチ・シュルツ／仁義なき戦い（V）etc.）が、これほどその効果が顕著に出た作品はなかった。

確かに、アメリカ人の映画撮影クルーがロシアで低予算ホラーの撮影中に、闇のスナップ・フィルム・シンジケートの陰謀に巻き込まれるという話自体は、それほど新味のあるものではない。でも、スナップ・フィルムの撮影現場を目撃してしまうヒロインを、撮影隊の特殊メイク担当で、口がきけないハンディキャップを持った女性に設定し、それをロシア人女優に演じさせたという発想は極めてポイントが高い。

口がきけない主人公で思い出すのは、台湾のホウ・シャオシェンが、北京語を流暢に話せない香港のトニー・レオンを口のきけない役にして成功した「悲情城市」。あの映画も、主人公の台詞を封じ込めることで演技や映像に込められる情報の密度が高まり、作品がより雄弁なものになっていたが、ここでも、それによって、サスペンスの基本でもある視線と視線が語り合い、緊張感が格段に増すという好結果を生んでいる。

また、作品に奥行と深みを与え、マニア心をくすぐる強力な武器〈映画的記憶〉を利用する手段も効果的に使われている。

誰の目から見ても一目瞭然なのが、ヒッチコックとデ・パルマへのオマージュ。特に「裏窓」と「ミッドナイトクロス」からの影響は絶大だが、2代巨匠に引けをとらないテクニックで、決して単なるモノマネにはしてはいない。

他にも、特殊効果のトリックは、「F／X引き裂かれたトリック」を彷彿とさせるし、全体に漂うブラックなユーモアと孤立無縁の夜の雰囲気はスコセッシの「アフター・アワーズ」にも似ている。そして当然のごとく、劇中の殺人シーンはあの殺人ヤラセ映画「スナップ」という忌まわしい記憶をも呼び起こさせずにはおかない。もちろん、その見せ物的いかがわしさが映画をさらに魅力的にしているのはいうまでもないのだけれど…。

とにかく、監督のアンソニー・ウォラーが深い映画的知識と高度な演出テクニック、そして、映画監督に最も必要なビジネス感覚を持ち合わせた驚異の新人であることは間違いない。そして、何よりそうした能力が、彼の個性を披露するために使われるのではなく、映画を面白く、そして効率的に作るために使われていることが素晴しい。

これみよがしな知識やテクニックをこれでもかと見せつけ、圧倒する発散型の新鋭（それはそれで凄いのだが）が多い昨今、こんなに気持ちよく映画そのものの世界に引き込んでくれる職人型の新しい才能は珍しく、貴重な存在といえる。彼がハリウッドの第一線で活躍する人気監督となるのも、そう遠い先ではないハズだ。

次回作は「狼男アメリカン」の続編となる「AN AMERICAN WEREWOLF IN PARIS」だという。題名を聞いただけでワクワクしてしまうのは私だけではないだろう。

MUTE WITNESS

ミュート・ウィットネス

この映画には、ここ何年か味わえなかったゾクゾクする怖さがある。今、最も エキサイティングな1本だ。
この作品の脚本家であり、監督でもあるアンソニー・ウォラーは
観客に対して恐怖の体験をさせるセンセーショナルな長編デビューを成功に導いた。
ヒッチコックの継承者として、ウォラーは我々を無意識のうちにおびえさせる1本を作った。
（ピーター・トラバース／ローリング・ストーン誌）

STAFF
製作・監督・脚本＊アンソニー・ウォラー
製作＊アレキサンダー・ブックマン
ノルバート・ソエントゲン
製作総指揮＊リチャード・クラウス
共同製作＊グレゴリー・リアツスキー
アレキサンダー・アタネスジャン
撮影＊エゴン・ウェルディン
美術＊バーバラ・ベッカー
美術デザイン＊マシアス・カメルマイアー
編集＊ピーター・アダム
音楽＊ウィルバート・ヒルシュ

CAST
ビリー＊マリーナ・スディナ
カレン＊フェイ・リブリー
アンディ＊イヴァン・リチャーズ
ラーセン＊オレグ・ヤンコウスキー
アーカディ＊イゴール・ヴォルコウ
リョーシャ＊セルゲイ・カーレンコフ
死神＊スペシャル・ゲスト
1995年／アメリカ映画／35mm／98分

1996*10/5sat.—11fri.

特別限定ロードショー！ 連日PM8:30~レイトショー上映
◎前売券発売中！一般＝1,400円／学生＝1,200円
（劇場窓口、及びチケットぴあにてお求めください。）

ホワイティ梅田・泉の広場上がる東へ5分
扇町ミュージアムスクエア
06-361-0088

10月下旬より京都公開予定　みなみ会館 九条大宮・近鉄東寺駅西へ150m（JR京都駅より、ひと駅2分）
●宣伝協力・お問い合わせ〈RCS〉075-315-7281